マチに学び都市を楽しむ／まちづくりNPO

特定非営利活動法人　もうひとつの旅クラブ

2012年度(第11期)事業報告書

１．旅クラブが２０１２年度に取り組んだ事業実績

2012 年度は、「大阪まち遊学」、「ご来光カフェ」といった当 NPO がこれまでに開発実践してきた事業が継続されつつも、フレンドショップなどの新企画、或いはご来光カフェにおける来訪者の大幅増加のように、さらなる前進をみせた年となった。また、引き続き継続・継承されている「北浜テラス（船着場プロジェクト)」、「OSAKA 旅めがね」「大阪まちあるき CUP」の活動や、前年度から渡って調査検討が行われた「大阪光のまちづくり 2020 構想」なども着実に成果を表してきているといえる。そしてなにより特筆すべきは、当 NPO 法人設立 10 周年の節目を記念したシンポジウム「まちあるきサミット」が、川の駅はちけんやにおいて開催されたことであろう。近畿各地にて、まちづくりを精力的に行っている団体及び個人の方々の活動報告、そして意見の交換交流を図ることにより、今後へとつながる一石を投じ得たのではないかと思われる。

以下が本年度の主な事業項目一覧である

（１）大阪まち遊学の企画・実施
（２）「ご来光カフェ」中之島物語～その魅力と未力　の企画・運営
（３）「大阪光のまちづくり２０２０構想」（第１稿）の課題解決の検討に際しての
　　調査および提案
（４）OSAKA 旅めがねの運営協力
（５）大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力（船着場プロジェクト）
（６）水都大阪フェス２０１２ー大阪まちあるき CUP の企画・運営
（７）もうひとつの旅談義の企画・実施
（８）おおまちラボラトリ参加
（９）「まちあるきサミット」(もうひとつの旅クラブ 10 周年記念シンポジウム)
（10）情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を次頁以下に報告する。

（１）大阪まち遊学の企画・実施

【事業趣旨・目的】

自分が身近に生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を旅人の目線であるいてみる。普段なにげなく接しているそのまちにいままで気がつかなかった魅力を発見してしまう。その魅力をその人の視点で紹介、自慢し、再び訪れたくさせる。旅人とジモティとの出会いを生み出す新たなコミュニティ・旅のプログラムを造成しまちの活性化を促進する。

【事業内容】

・11 コースのまち歩きプログラムの企画、開発、参加者募集、実施。

【事業成果】

実施日	エリア	タイトル	参加数（お客）	参加数（NPO）
3回実施	大正	大正、モ～一杯！2012(6/24 7/14 7/28)	37 名	3 名
7/21(土)	阿倍野	音楽のまち、スポーツのまち・阿倍野	9 名	5 名
8/4(土)	大阪城	大阪城　納涼NIGHT	8 名	4 名
8/18(日)	堺	堺いく堺	7 名	4 名
9/15(土)	天満橋	街中アートを満喫・天満橋界隈	9 名	4 名
10/13(土)	玉造	玉造でつくる！～造り人を訪ねて	8 名	5 名
10/20(土)	中之島	中之島ライトアップツアー	11 名	6 名
10/21(日)	平林	材木の町・平林～MOKUMOKU さんぽ	中止	
10/27(土)	大正	大正？大正！	4 名	5 名
11/10(土)	高井田	モノづくりの現場の最先端に潜入・高井田 2012	11 名	4 名
11/10(土)	布施	商店街とだんじり！布施	5 名	5 名

■　今年度は、ＮＰＯ新規加入メンバー３名もコース造成に参加し、１１コースを企画。スタッフを含めて合計で延べ１５４名の参加となった。

■一部のコースを除き、ＯＳＡＫＡ旅めがねのフレンドショップとしても販売を行ない、プログラムＰＲの対象範囲の拡大と集客力の向上をはかり、ＯＳＡＫＡ旅めがねの収益にも貢献をした。従来はホームページサイトおよびパンフレットを使った広報活動を行っていたが、今年はそれに加えて過去の参加者のメールアドレスを活用し、プログラム内容の概要を説明するメールマガジンを計３回発信するなど広報活動の改善を実施した。

■今年度のプログラムの特徴は、昨年同様、以前に実施したプログラムをリバイスすることでコース造成をしたものが多かった。過去にＮＰＯで造成したコースをＯＳＡＫＡ旅めがねで再販売することで旅めがねの収益には貢献したが、コースの新規開拓や、コース造成に時間を掛けることが一部出来なかったという反省点もあり、まち遊学の活動方針や旅めがねの活動との関係性を整理する必要があると考える。

【活動写真】

（2）「ご来光カフェ」 中之島物語～その魅力と未力 の企画・運営

【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案し、各人それぞれの「中之島時間」を発見していただくことで、実施期間後、1 人でも多くの方に中之島の豊かな普段使いをしていただくことを目的とし、今年で 7 回目の開催となった。

【事業内容】

・期　間：2012 年 10 月 1 日（月）～8 日（月・祝）
・営業時間：日の出（5:50 頃）～8:30
・場　所：大阪水上バス淀屋橋港桟橋
・内　容：
①桟橋を装飾し、テーブル・椅子を設置して朝日を眺めるカフェを営業、飲み物は 400 円で提供
②アクア mini によるミニクルーズの実施（6:30 より随時、乗船料 1,000 円ﾜﾝﾄﾞﾘﾝｸ付）
③専用ホームページによる PR と営業日誌の公開
④アンケートの実施
⑤継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフの募集
⑥ご来光カフェ ロゴ入りコースターのお客様への配布
・後　援：水辺のまちづくり企画推進委員会
・協　力：大阪水上バス株式会社

【事業成果】

ここ数年続いている天候の良さに本年も恵まれ 8 日全日での営業となった。期間中の来訪者は 955 名。これまでで最も来訪者の多かった昨年(512 名)を大幅に上回る方々にお越しいただいた。

昨年までと同様に、ボランティアスタッフも定着してきており、各人の経験・ノウハウも蓄積され、貴重な戦力となっている。また、給仕のオペレーションも年々改善し円滑化され、おもてなしのレベルも高くなっている。

水辺のイベントとして定着してきたことで、昨年度に比べ約 1.9 倍の来訪者に来ていただいた。この傾向は来年度も続くと考えられる。多数の来訪者に対応しつつ、ご来光カフェとしての魅力を損なわない取り組みや方向性等について、最終日（10 月 8 日）や打ち上げの場でスタッフでの意見交換がなされ、クイックメニューの創出やスタッフのオペレーションの改良などの意見が出されている。こうした意見を受けた改善策等の検討が次年度の開催に向けては必要である。

ご来光クルーズの乗船者数は 385 名で来訪者数以上の増加（約 2.4 倍増）となった。乗船ウェイトは 40.3%と昨年の 31.1%を上回り、朝の中之島界隈の水辺を多くの方々に楽しんでいただけたといえる。

マスコミの取材は、梅田経済新聞（9/27　http://umeda.keizai.biz/headline/1424/)、朝日新聞（大阪版：9/29 付）に掲載されたほか、FM802「HIROT’S MORNING JAM」、FMcocolo、ABC ラジオなどラジオを中心に紹介をいただいた。

【活動写真】

【主担当】岩田理事長、脇理事、羽田理事

（３）「大阪光のまちづくり2020構想」（第１稿）の課題解決の検討に際しての調査および提案

【事業趣旨・目的】

大阪では現在「大阪光のまちづくり 2020 構想」に基づいた夜間景観の整備・充実が、大阪府、大阪市、民間が一体となって進められている。水都大阪の推進の中で、夜間景観づくりは中之島、水の回廊、御堂筋エリアにおいて着実に進展しており、四季のイベントのひとつである「大阪光のルネサンス」は 300 万人以上の来訪者を誇り、市民に認知されるものに育っている。しかし、一般の市民や企業の関わりは十分とはいえず、今後、活動を拡大させていく主体や仕組みについては課題であり、構想においても認識されている。その理由のひとつとして、まちあかりや夜間景観は身近なものであるにもかかわらず、それらを評価する「ものさし」を市民は持ち合わせておらず、その結果として、照明デザインの質に対する評価や自らが関わっていくことにつながりにくいのではないか、という課題設定を行った。

そこで当調査では、プロの視点から見る大阪のまちあかりの評価とその判断の「ものさし」を集め、それらをもとに、まちあかりへ市民が関われるようなコミュニケーション方法を探り、今後の展開内容の検討に資することを目的とした。

当調査検討にあたり、大阪で活躍する照明デザイナーとして、岡幸男氏（ライズ）、豊留孝治氏（パナソニック電工）、長町志穂氏（ＬＥＭ空間工房）、松本浩作氏（ＳＴＹＬＥ　ＭＡ‘ＴＥＣ）の４名の協力を得た。その結果、大阪の夜間景観の魅力要素として、①場の力、大阪らしさを際立たすまちあかり、②人の行為、心づかいが感じられるまちあかり、③基本的な設計手法が優れているまちあかりを抽出した。

また、講演会や夜景ツアーを開催し、照明デザイナーと市民との交流の機会を設けて意見交換を行い、コミュニケーション方法（展開アイデア、推進主体と仕組みのアイデア）の提案を行った。さらに、中之島において市民のあかりに対する見識を高めることに資するまちあるきのコース案を造成した。（2012 年の大阪まち遊学のコースとして実施した）

【事業内容】

・期　間：2011 年 7 月～2012 年 1 月

・委託者：関西電力株式会社

・内　容：①大阪で活躍されている光の専門家による夜間計画の評価と分析

②一般市民を対象にした勉強会の実施

イ．照明デザイナーとの夜景ツアー

（7/5 岡幸男氏　中之島、9/2 豊留孝治氏　八軒家浜）

ロ．まちあかりサミットの開催

（11/28 岡幸男氏、豊留孝治氏、長町志穂氏、松本浩作氏）

③まちあかり体験コース（中之島東エリア、中之島西エリア）の提案

④ブランド力アップのための一般市民とのコミュニケーション方法の提案

【主担当】福田副理事長、岸田副理事長、泉理事、岩田理事長、脇理事、森事務局長、河野理事、米谷監事、羽田担当（役職は 2011 年度時点）

（4）OSAKA 旅めがねの運営協力

【事業趣旨・目的】

OSAKA 旅めがねは、継続的に地域コミュニティの元気を育むソーシャルビジネスを目指している。着地型観光プログラムを通じて、大阪の真の魅力を再発見し、地域と参加者との交流機会を創出する。当 NPO は、水都大阪 2009 の事業立ち上げ時には共同事業者として参画。水都大阪 2009 終了後、事業者は退いたが、運営協力者として継続して企画運営、案内人、プロモーションなど様々な形で役割を担ってきた。OSAKA 旅めがねは、2012 年 4 月からは新たな独自採算スキームの下、エリアクルー34 名（内、ボードメンバー10 名）と事務局による運用開始。当 NPO メンバーは、引き続き運営協力者として参画している。

【運営協力概要】

①ボードメンバーへの参画

・　旅めがねの運営方針の決定

ボード会議開催日：4/10、5/7、6/12、7/2、9/12、10/16、11/13、12/18、1/28

・　運営担当

定番コースシフト調整（岩田理事長、福田副理事長）、メルマガ（岸田副理事長）、ファンクラブ懇親会・ボード会議室提供（岩田理事長）、OSAKA まちあるき CUP（泉理事）、組織マネジメント・最新ツアーチラシ・公式ツィッター・フェイスブックページ作成運用（福田副理事長）

担当：岩田理事長、岸田副理事長、福田副理事長、泉理事

②エリアクルーとして案内

・　プロの案内人としてお客様を案内。プレミアムツアーを造成・案内。

担当：岩田理事長（鶴橋、新世界、プレミアム大阪駅）、岸田副理事長（野田、中之島、プレミアム中之島夕涼み）、福田副理事長（大正、中之島、プレミアム大正モー一杯、プレミアム中之島夕涼み）、森事務局長（プレミアム中之島夜景）、泉理事（プレミアム高井田）、脇理事（野田、プレミアム中之島夜景）、羽田理事（空堀）

③旅めがねフレンドショップに提供

・　フレンドショップとしてツアーを造成・案内。

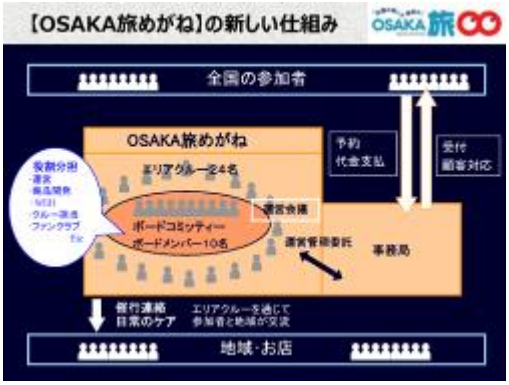
担当：米谷監事（大阪城）、小坂谷（天満橋）、田尻・森事務局長（玉造）、磯上（大正？大正！）

④プロモーション

・　執筆活動「大阪謎解き散歩」（岩田理事長、岸田副理事長、福田副理事長、泉理事）
・　様々なチャンネルで運営支援
  - NHK 出演「ルソンの壺」：ええトコ!! ぶらり大阪 すきやねん，2012 年 3 月 25 日（岩田理事長、泉理事）
  - ワガヤネヤガワ大学の公開講座での講演「まちあるきのススメ」2012 年 9 月 23 日（泉理事、森事務局長）
  - 読売新聞 連載特集「回顧と再生」：［北浜］近代建築　栄華語るアート，2013 年 1 月 6 日（泉理事）

【活動写真】

▲プレミアム大阪駅ツアー（12 月 1 日）
1 日で三回ツアー。30 名を案内。



▲OSAKA 旅めがねの新しい仕組み

（5）大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力（船着場プロジェクト）

【事業趣旨・目的】

北浜テラスは、今年新規 1 店舗が増え、8 つの川床、7 店舗となった。昨年同様、水都大阪フェスの時期に合わせ、仮設船着場の設置運営の社会実験を実施し、水辺バルへ参加した。2012 年 3 月 26 日には、河川法占用準則の改正に伴い、北浜地域が都市・地域再生等利用区域に指定され、新たな占用スキームに移行した（実質は変化なし）。あわせて、大阪府が進める遊歩道整備の条件整理、基本設計がはじまり、北浜全体の地域合意形成の取組みもスタートした。

【事業内容】

①各種会議

・総会（5/24）

・理事会（1/17、2/22、3/19、4/13、5/7、6/18、7/20、8/20、9/27、10/25、11/13、12/11）

・地域清掃（8/21）

②テラスの設置・運営、テラス新設への支援

・衝立ルール作成、その他

・きのしたテラス新設、永和ビル希望社テラス新設協議

③大阪府遊歩道整備に関する協議

・北浜の水辺整備を検討する会（8/23、12/13）

・大阪府との協議

④北浜テラス船着場プロジェクトの企画・運営

・船着場運営（10/13～31）

・大阪水辺バル 2012（10/13・14）

など

北浜テラス

大阪にも川床を!!の想いを実らせた「水都大阪2009」での試みが継承され、ついに全国で初めて常設化が実現しました。レトロ建築や緑が美しい水の都の象徴・中之島と、行き来する観光船。自然の風が通り抜ける川床を体感してください。春には川開きの神事を行います。現在7店舗が参加中。

●参加店舗:泉州旬味十六夜 06-6208-7078、Bistro bar真琴 06-6484-7961、北浜ルンバ 06-6222-6700、MOTO COFFEE 06-4706-3788、Buon Grande ARIA 06-6202-1991、酒処麺処きのした 06-6226-1096、Casual Restaurant OUI 06-6233-1192

※テラス席利用期間は3月下旬(川床開き)～12月末　※一部店舗は通年利用可

●お問い合わせ:北浜水辺協議会事務局 06-6538-4880(担当:森井、山根)

平成 25 年度観光素材説明会資料（JR 西）に掲載

【活動写真】

【主担当】岸田副理事長、泉理事

（泉、岸田は北浜水辺協議会の理事を兼ねる）

（6）水都大阪フェス2012ー大阪まちあるき CUP の企画・運営

【事業趣旨・目的】

ほんまもんの大阪を体感できる「まちあるき」は、まだまだマイナーであり、「まちあるき」の本当の面白さをより多くの人に知ってもらうために大阪まちあるき CUP を企画した。今年は OSAKA 旅めがねが運営主体となり、旅めがねと旅クラブを兼務するメンバーが中心となった。

【事業内容】

大阪まちあるき CUP は水都大阪フェス 2012 の 1 プログラムとして実施。10～11 月 2 ヵ月間に用意された各ツアーに申し込んだ参加者が通常通りまちあるきを行い、まちあるきで発見したまちの魅力や楽しかったこと（ステキだった人、印象に残ったこと、友達に紹介したい場所等）をフェイスブックページ（https://www.facebook.com/osakacup）に写真付きで投稿してもらう。投稿された記事はフェイスブックユーザであれば誰でも閲覧可能であり、フェイスブックページを「いいね！」クリックしたユーザは、記事に対して「いいね！」クリックしたりコメントすることが可能である。すなわち、投稿記事が魅力的であれば大勢のユーザが「いいね！」やコメントを押してくれるため、まちあるきの魅力が口コミ的に拡がることが期待される。人気の投稿は定期的に集計して、公式ホームページ（http://tabimegane.com/osakacup/）にて紹介するという方式とした。

【事業成果】

- 販売したツアーは 46 に対して、催行されたツアーは 25
- 参加事業者は 6
- まちあるき参加者 275 名
- フェイスブックページに「いいね！」クリックユーザ 645 名（2011 年 9 月 1 日公開、2013 年 1 月 16 日時点）
- 総投稿数 3 件
- 総投稿者数 2 名
- 投稿に対する「いいね！」総数 52 件
- 投稿に対するコメント数 6 件

昨年度は大いに盛り上がった大阪まちあるき CUP であるが、今年は盛り上がりに欠けた。理由として予算 0 の中で広告宣伝ができなかったこと、担当者が十分に時間をかけることができなかったこと、2012 年秋よりフェイスブックページの仕様が変更となり一般ユーザの投稿がウォールに大きく表示されなくなったこと、が挙げられる。一方で、まちあるき団体 6 事業者によりツアーを販売できたことは成果といえる。

図　大阪まちあるき CUP フェイスブックページ

主担当：泉理事、福田副理事長、脇理事

（7）もうひとつの旅談義の企画・実施

【事業趣旨・目的】

「夜景と旅」をテーマとして、もうひとつの旅談義を 2 件実施した。「大阪『みんなでつくるまちあかり』について考える」（2011 年 9 月 2 日実施）、まず、天満橋の照明デザイン（2011 年 7 月末完成）に参画されたパナソニック電工㈱ 豊留孝治氏より話題提供をして頂くと共に、天満橋を現地見学した。

【事業内容】

①「大阪『みんなでつくるまちあかり』について考える」

「大阪『みんなでつくるまちあかり』について考える　～京都、城崎、篠山、天満橋などの取り組み事例から～」と題した旅談義は、照明デザイナーであるパナソニック電工㈱（現・パナソニック） 豊留孝治氏が参画された天満橋の照明デザインの講演を受けた後、天満橋を現地見学（まちあるき）するもの。概要を以下に示す。

- 日時：2011 年 9 月 2 日（金）19:00～20:30（第 1 部：講演・現地見学会）
  20:30～22:00（第 2 部：交流会）
- 会場：Xing GARDEN（〒540-0031 大阪市中央区北浜東 1-2 川の駅はちけんや B1）
- 講師：パナソニック電工㈱（現・パナソニック） 豊留孝治氏
- 募集方法：チラシ、旅クラブホームページ、フェイスブックなど。
- 参加人数：第 1 部 29 名、第 2 部 22 名
- コース：（集合）川の駅はちけんや、豊留氏による講演 －＞ 天満橋 －＞川の駅はちけんやにて交流会

②「プロと共に大阪のまちあかりの魅力を探ろう！」

「プロと共に大阪のまちあかりの魅力を探ろう！」と題した旅談義は、大阪を拠点とし国内外で活躍中の照明デザイナー4 名（㈱ライズ 岡幸男氏、パナソニック電工㈱（現・パナソニック） 豊留孝治氏、㈱LEM 空間工房 長町志穂氏、STYLE MA'TEC 松本浩作氏）が、照明デザインの専門家として魅力的だと考える大阪のまちあかりを事前に調査収集し、この旅談義の場においてこれらの事例を紹介すると共に魅力的である理由を解説する。さらに、NPO 法人もうひとつの旅クラブのメンバーを交えながら、市民と共有可能なまちあかりのあるべき姿についてディスカッションするものである。

概要を以下に示す。

- 日時：2011 年 11 月 28 日（月）19:00～20:45（第 1 部：講演・ディスカッション）
  20:45～22:30（第 2 部：交流会）
- 会場：Xing GARDEN（〒540-0031 大阪市中央区北浜東 1-2 川の駅はちけんや B1）
- 講師：㈱ライズ 岡幸男氏、パナソニック電工㈱（現・パナソニック）豊留孝治氏、㈱LEM 空間工房 長町志穂氏、STYLE MA'TEC 松本浩作氏
- 募集方法：チラシ、旅クラブホームページ、フェイスブックなど。
- 参加人数：第 1 部 50 名、第 2 部 29 名
- ディスカッション・テーマ：魅力的な大阪のまちあかりとは／市民と共有される「まちあかり」のあるべき姿とは？／魅力的なまちあかりを実現する上での課題は？

NPO 法人 もうひとつの旅クラブ presents

もうひとつの旅談義 2011 第 1 弾

NPO 法人もうひとつの旅クラブでは、2011 年「改革と旅」をテーマとして、もうひとつの旅談義を開催します。第 1 弾として、1 月末に完成した天満橋ライトアップデザインに携わられた岡田孝治さんをお招きします。是非、お集まりください。

日時：2011 年 2 月 3 日（金）
18:00～20:30（第 1 部：講演・質疑応答学会）、20:30～22:00（第 2 部：夕食付交流会）
講師：岡田孝治氏（パナソニック電工株式会社）
テーマ：「大阪『みんなでつくるまちあかり』について考える　～浪速、堺、伊丹、天満橋など取り組み事例から～」
会場：KingGARDEN（〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東 1-2 JR 京橋はもちけんや 8F）
会費：第 1 部・1,000 円（ワンドリンク付）、第 2 部・3,000 円（当日徴収します）

申込方法：受付アドレス　OsakaTabiclub@gmail.com 宛
お名前、年齢、電話番号、E-mail アドレス、職業、出席希望（第 1 部／第 2 部別）をご記入の上、E-mail（OsakaTabiclub@gmail.com）宛にお申し込みください。当方から改めて受付確認のご連絡を差し上げます。

申込〆切：2011 年 1 月 28 日（金）
定員：40 名（先着順）

講師略歴：1967 年徳島県生まれ。1976 年パナソニック電工（旧・松下電工）入社。建築照明デザイナー。あかりによるまちづくりの照明設備事業の調査や企画、照明計画、社会実験、空間デザイン、照明器具デザイン、コンサルティングなど。主な実績：明石海峡大橋遊歩道のデザイン、東神戸大橋ライトアップ実務、福島駅～東梅田～梅本橋ライトアップ、小布施町町並み景観照明整備構想、松江市都市景観照明マスタープラン、佐島港新町地区ひかりのプロムナード整備基本計画、京都西山寺「夢あかり」、浪華地域ライトアップ基礎調査、高岡市地方交流再生事業「ひかりの回廊館」、大阪府天満橋ライトアップ実務、姫路温泉の様のライトアップなど多数。

NPO 法人 もうひとつの旅クラブ　http://www.Tabiclub.org/

▲「大阪『みんなでつくるまちあかり』について考える」PR 用パンフレット（左）、当日の様子（右上：講演、右下：見学会）

NPO 法人 もうひとつの旅クラブ もうひとつの旅談義

プロと共に大阪のまちあかりの魅力を探ろう！

大阪では官民の連携によるまちづくりが進行中で、中之島を中心に橋や水辺がライトアップされ、新たな観光資源が生まれています。しかし、私たち市民は「まちあかり」に対する評価の検証をまだ行ったことはないのではないでしょうか？
そのような問題意識から大阪を拠点とし国内外で活躍する照明デザイナー達が、プロとして魅力的と感じる「まちあかり」を集めました。今回の例会では、これらの事例を紹介していただくと共に「なぜ魅力的なのか」をわかりやすく解説していただきます。さらに、市民と共有される「まちあかり」のあるべき姿について、皆さんと一緒に考えたいと思います。是非、お集まりください。

日時：2011 年 11 月 28 日（月）
18:00～20:45（第 1 部：講演・ディスカッション）
20:45～22:30（第 2 部：夕食付交流会）
講師（50 音順）：岡本敏 氏（ライズ）、豊田孝治 氏（パナソニック電工）、
奥村宏輝 氏（LENA 照明工房）、松本浩作 氏（STYLE MATTEO）
会場：KingGARDEN（〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東 1-2 JR 京橋はもちけんや 8F）
会費：第 1 部・1,000 円（ワンドリンク付）、第 2 部・2,500 円　～当日徴収します
主催：NPO 法人 もうひとつの旅クラブ
申込方法：お名前、年齢、電話番号、E-mail アドレス、職業、出席希望（第 1 部／第 2 部別）をご記入の上、E-mail（OsakaTabiclub@gmail.com）宛にお申し込みください。当方から改めて受付確認のご連絡を差し上げます。
申込〆切：2011 年 11 月 21 日（月）
定員：50 名（先着順）

岡本敏
ライズ 代表取締役。1972 年大阪芸術大学卒業。LD ヤマギワ店舗設計を経て 1998 年ライズ・ライティング・デザイン事務所設立。現在に至る。活動大学非常勤講師。今はこどもスタ教育研究所・デザイン 1 級。

豊田孝治
パナソニック電工株式会社 照明エンジニアリング総合部。1957 年生。1976 年松下電工就入社。建築照明を中心にデザインと企画からの「まちづくり」提案、計画、実施などのコンサルに携わる。本国に天満橋ライトアップなど。

奥村宏輝
関心領域 空間工学 光表現研究。京都精華大学・京都造形芸術大学非常勤講師。京都精華大学デザイン学部卒業。「関西国際イルミネーションコンペ 2009」最優秀賞、「京阪天満ライトアップコンペ」優秀賞、グッドデザイン賞を約 100 点を受賞多数。

松本浩作
STYLE MATTEO 代表取締役。1961 年生。16 歳の時に大阪最大手百貨店勤務。大丸梅田店、松坂屋デザイン室勤務を経て 1998 年より現職。ハービスエント、西宮ガーデンズ、阪急百貨店梅田本店、西宮店、本店などの店舗設計、照明デザイン。

▲「プロと共に大阪のまちあかりの魅力を探ろう！」PR 用パンフレット（左）、当日の様子（右上：講演、右下：ディスカッション）

主担当：岩田理事長、岸田副理事長、福田副理事長、森事務局長、泉理事、脇理事、河野理事、羽田理事、米谷監事

（８）おおまちラボラトリ参加

【事業趣旨・概要】

おおまちラボラトリは、黒部ダムをもつ関西電力の呼びかけにより、大町市の活性化に取り組む有志が集まって結成された大町活性化委員会が主催する研究会である。今年は 6 月から毎月一回 6 ヶ月にわたり、全国で観光集客をキーに地域活性化に取り組む人々を招いてワークショップや講演会を開いた。山崎亮氏や北川フラム氏など名だたるゲストが招かれるなか、2012 年 9 月 24 日、第 4 回のゲストとしてもうひとつの旅クラブが招かれ、選抜チーム 5 人が大町を訪れた。まず 5 人はほとんどが初めて訪れるまちで大阪まち遊学における街の魅力発見の経験をいかして、地元と人と共に大町のまちを歩き、次々と魅力的なコンテンツを収集していった。夜には「地域の魅力発見、市民が発見するまちあるき」と題して旅クラブの活動紹介とあわせて昼間歩いた大町の魅力的なコンテンツを発表し、即興のまちあるきコースを作成するワークショップを行った。

【事業内容】

①10：30　JR 大町駅前集合　まちあるき

・ 2 班に分かれて地元の人とまちを歩きながら魅力発掘。

②14：00　まちあるき終了～発表の準備

・魅力的なコンテンツの整理・選定と分析

・テーマの検討、コンテンツを結んでコースの仮設定

③19：00　会場の霊松寺会館にて講演

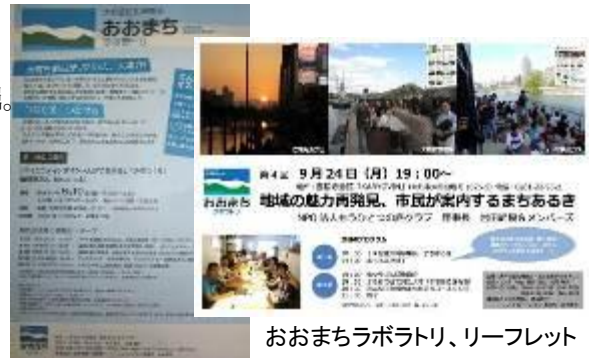
・旅クラブの活動紹介

・よそ者の目で見た大町（まちあるき報告）

④20：00　みんなで大町のまちあるきコースづくり

・2 つのテーマを設定して 2 班によるコースづくり

・各班のコースを発表、意見交換



おおまちラボラトリ、リーフレット

駅前に集合でまちあるき開始　目が合えば訪問して話を聞く

【活動写真】

個性的な蔵を見つけて訪問

あらゆるところに水路が豊富

旅クラブの活動紹介

古い蔵を改修した交流施設

ユニークな私設アーケード発見

老舗のご主人に写真を見せてもらう

即席まちあるきコースの発表

【主担当】岩田理事長、森事務局長、羽田理事、米谷監事、小坂谷、泉理事
（泉理事はハートビートプランにておおまちラボラトリ全体の運営支援を担当）

（９）「まちあるきサミット」(もうひとつの旅クラブ 10 周年記念シンポジウム)

【事業趣旨・目的】

当 NPO 法人設立 10 周年の節目を記念したシンポジウム「まちあるきサミット」を開催した。近畿各地で活動するまちづくりに関わる団体・個人に参加いただき、それぞれの取り組みを紹介した後、まちあるきの企画や広報・集客方法等について座談会形式の意見交換を行い、団体同士の交流を図った。

【事業内容】

・日時：2012 年 11 月 24 日（土）14:00～17:00　第 1 部：各参加団体による活動紹介・座談会
　　17:30～19:30　第 2 部：各参加団体との交流会
・会場：XingGARDEN（〒540-0031 大阪市中央区北浜東 1-2 川の駅はちけんや B1）
・募集方法：発表団体　関西 24 団体・個人に案内状を送付し参加者を募った
　　一般参加　新聞告知（京都新聞、毎日新聞）、旅クラブホームページ、など。
・参加人数：第 1 部　63 名、第 2 部　51 名
・参加団体：10 団体・個人
　安土町観光協会（滋賀）、尼崎南部再生研究室（兵庫）、
　OSAKA 旅めがねコンソーシアム（大阪）、そや堺　ええ街つくり隊（大阪）、
　難波りんご（大阪）、姫路円卓会議（兵庫）、
　㈱ブルーオーキッドコンサルティング（奈良）、ふろいこか～プロジェクト（兵庫）、
　まいまい京都（京都）、八尾市観光ボランティアガイド（大阪）

告知パンフレット

団体・個人への案内状

【事業成果】

一般参加を含め、第 1 部 63 名、第 2 部 51 名と多くの方に参加いただいた。参加団体・個人から、尼崎の工場地帯の運河を巡るツアー、姫路城の外堀・中堀・内堀ツアー、堺の商店街での達人ツアー等それぞれ特徴のあるまちあるきツアーやまちづくりの取り組みが紹介され、その後の座談会では活発な意見交換が成された。また、第 2 部の交流会では、団体同士だけでなく、まちあるき参加者と企画する側の交流も深められた。

【主担当】岩田理事長、岸田副理事長、福田副理事長、森事務局長、泉理事、脇理事、羽田理事、米谷監事、磯上、小坂谷、田尻

（10）情報提供、提言活動事業

（1）～（9）の他にも、まちづくり NPO として、大阪のまちの魅力を再発見・開拓し、多くの人々と共有するために、各種情報提供や提言活動への参加などを積極的に展開した。

◆ホームページによる情報提供

当 NPO の社会的プレゼンスの向上を目指し、2007 年度にリニューアルしたホームページ。今年度も最新情報の継続的な提供を試みた。大阪まち遊学、OSAKA 旅めがねフレンドショップ、ご来光カフェ、まちあるきサミット、まちあるき CUP、北浜テラス等の旅クラブイベントや報道の話題を中心に、16 回の更新作業を実施した（2011 年度は 27 回）。また、サイト更新時には、メンバー個人の Facebook や Twitter でもアナウンスを行っている。

What's New！のタイトルは次のとおり。

①イベント

- 2011 年よりご来光カフェの舞台、大阪水上バス淀屋橋港桟橋がさらに水辺空間を楽しめる場として生まれ変わりました。(2012 年 5 月 12 日 up)
- 「大阪まち遊学 2012」受付スタート！(2012 年 6 月 12 日 up)
- 大阪まち遊学 2012-阿倍野レポート(2012 年 8 月 31 日 up)
- 今年もやります！ご来光カフェ 2012(2012 年 8 月 28 日 up)
- もうひとつの旅クラブが長野大町市に登場します！(2012 年 9 月 4 日 up)
- 大阪まち遊学 2012-堺レポート(2012 年 9 月 24 日 up)
- 「まちあるきサミット」（もうひとつの旅クラブ 10 周年記念シンポジウム）を開催します！(2012 年 10 月 21 日 up)
- 2012 年度第 9 回都市環境デザインセミナーご案内　まちづくりの「まち医者」～これからの専門家像を探る　泉英明(2012 年 11 月 3 日 up)
- 旅クラブ理事長岩田尚樹が大商大で公開講義！(2011 年 11 月 30 日 up)
- OSAKA 旅めがねフレンドショップ 2012-玉造レポート(2012 年 12 月 26 日 up)

②報道

- ウェブマガジン greenz.jp の culture creative 欄(2012 年８月 18 日付)に北浜テラスの記事が紹介されました！(2012 年８月 20 日 up)
- 梅田経済新聞(2012 年 9 月 27 日付)でご来光カフェが紹介されました！(2012 年 10 月 3 日 up)
- 毎日新聞でまちあるきサミットが紹介されました！(2012 年 11 月 17 日 up)
- 京都新聞朝刊(2012 年 11 月 17 日付)でまちあるきサミットが紹介されました！(2012 年 11 月 17 日 up)
- 毎日新聞でまちあるきサミットが紹介されました！(2012 年 12 月 11 日 up)

③事業報告

- 2011 年度（第 10 期）事業報告 up(2012 年 4 月 3 日 up)

◆新聞等への掲載、テレビ・ラジオ出演

NPO 活動の実施を通じた取材、投稿により、当 NPO の活動理念、活動内容が以下のホームページ・新聞・雑誌に掲載された。

①新聞・ホームページ

1. 大糸タイムス『市街地歩き魅力発見ーおおまちラボラトリ勉強会』(2012 年 9 月 25 日)
2. 梅田経済新聞『淀屋橋港桟橋に 8 日間限定「ご来光カフェ」ー「ご来光クルーズ」も』(2012 年 09 月 27 日)
3. 朝日新聞朝刊『年 8 日間だけご来光カフェ』(2012 年 9 月 29 日)
4. 毎日 jp『探訪・ノスタルジア:特別編 温故知新・まちあるきサミット』(2012 年 12 月 10 日)
5. 毎日新聞夕刊『探訪・ノスタルジア:特別編 温故知新・まちあるきサミット』(2012 年 12 月 10 日)
6. 毎日新聞朝刊『まちあるきサミット:２４日・中央区で　参加者募集　／大阪』(2012 年 11 月 16 日)
7. 毎日 jp『『まちあるきサミット:２４日・中央区で　参加者募集　／大阪』(2012 年 11 月 16 日)
8. YOMIURIONLINE（読売新聞）『「懐古と再生」: [北浜]近代建築　栄華語るアート』(2013 年 1 月 6 日)

②雑誌・著書・論文

9. 大阪市交通局,「ノッテオリテ」vol.19, 2012 年 5 月号, 『「食との出会い」でさらに濃密な大阪のぞきを。』(小田切・旅めがね)
10. 大阪市交通局,「ノッテオリテ」vol.19, 2012 年 5 月号, 『コリアンフードの豊かさにまみれる。』(岩田理事長)
11. NHK,「ウイークリーステラ」,2012 年 3 月 30 日号, 『ええとこ!! ぶらり大阪すきやねん』(岩田理事長、小田切・インプリージョン)

③テレビ・ラジオ

12. NHK『「ルソンの壺」: ええトコ!! ぶらり大阪 すきやねん』, 2012 年 3 月 25 日放送（岩田理事長、小田切・インプリージョン）
13. NHK ラジオ第一放送（666）『かんさい土曜ホットタイム』, 2012 年 10 月 13 日放送（森事務局長、田尻）

市街地歩き魅力発見

おおまちラボラトリ勉強会

有志が大町市の活性化を目指して専門家を招き勉強会を重ねている「大町活性化研究会」（おおまちラボラトリ）は24日、第4回の勉強会を市街地や善光寺周で開いた。大阪府のNPO法人「もうひとつの旅クラブ」の岩田満雄事長（67）を迎え、何気ないまちの魅力を歩いて探した。

団塊会や踊クラブ、大町レディースら約20人が2班に分かれ、まちを歩いた。岩田理事長らは個別町だった五日町や、市内を流れる水路「町川」などを巡り、まちの中で見かけた昔のかたちはどうなっているのかなどを話題にしながら、「魅力が高密度にたまっている。こんな楽しいまちはめったにない」と感想を語った。

同NPOは、日常のまちを旅の視点から見てきて、まちの隠れた魅力を掘り起こそうと大阪府を中心に活動。岩田理事長は「自分たちの住む町の魅力は見えにくいがちだが、見方によっては魅力的になる。日常でも楽しめるよう『旅』ができて、まちの隠れた魅力を発見できる」と述べていた。

夜の部では、地元や姉妹城の目から見たまちの魅力を発出し、まちあるきのコースづくりに取り組んだ。

興会世話人の鈴木幸佳さんは、勉強会も1回を迎え、これからは実践につなげる段階。周の見える大町ファンをどうつくるか考えていきたい」と話した。

まちあるきで魅力さぐる岩田理事長（左）

▲1 大糸タイムス『市街地歩き魅力発見ーおおまちラボラトリ勉強会』(2012 年 09 月 25 日)

淀屋橋港桟橋に8日間限定「ご来光カフェ」－「ご来光クルーズ」も

ツイート 42　いいね! 191　1　フェッチ

この評判の場所を見る　(2012年09月27日)

写真を拡大

8日間限定でオープンする「ご来光カフェ」

人阪水上バス淀屋橋港（大阪市中央区北浜3）桟橋上に10月1日、期間限定の「ご来光カフェ2012」がオープンする。企画・運営はNPO法人「もうひとつの旅クラブ」。

「朝、桟橋でコーヒーが飲めたら気持ちいいね」「生駒山が見えるから月の出が見られるのでは」と2006年、初企画・運営された同店。1年目は15日間限定でオープンしたが、桟橋から日の出を拝むことができるのは約1週間と判明。2年目からは現在と同じ8日間で営業している。利用客は年々増え、昨年は512人が来店した。

メニューは、手作りスコーン（2個200円）、シナモンアップルトースト「ポンメン」（200円）、コーヒー、紅茶、抹茶（以上400円）を用意。来店客は、いれたてのコーヒーを片手に撮影などを楽しんでいる。

期間中、水上バスでクルーズングする「ご来光クルーズ」も毎日運航。約20分のクルーズで、水位などにより運航コースが変わる。ワンドリンク付き1,000円。毎朝6時30分から船内運航する。

同NPOの前田拓也さんは「最近何気なく行き来している淀屋橋で、ご来光を眺めながら、ゆったりとした朝から始める特別な1週間にしていただけたら。今年もいれたてのコーヒーを用意してお待ちしております」と話す。

「ご来光カフェ」の営業時間は5時50分ごろ～8時30分（10月1日の日の出は5時53分）。雨天休み。休みの場合は5時までにホームページで知らせる。

淀屋橋港水上バス乗り場に「ミオバル」－水都大阪のランドマークに（梅田経済新聞）

淀屋橋にパンケーキ専門店「バター」－盛出しパンケーキなどの限定メニューも（梅田経済新聞）

ご来光カフェ2012

大阪の真ん中で1年に数日間だけ朝日を楽しむ水上カフェ「ご来光カフェ2012」が10月1日に開店する。日の出を迎える午前5時50分ごろから午前8時半まで、大阪水上バスの淀屋橋港でコーヒーや紅茶、スコーンなどを販売し、大阪・奈良府県境の生駒山から昇る日の出を楽しむ。

NPO法人もうひとつの旅クラブが、たこ焼き、吉本、タイガースなどが大阪のイメージだ

年8日間だけ ご来光カフェ

来月1日～8日、淀屋橋港

が、新たな魅力を発信したいと企画。2006年に始まり、今年で7回目。NPOの岩田尚樹理事長(47)は「じわじわと浸透してきたが、もっと多くの人に知ってもらいたい」と話す。10月8日まで。雨天中止の情報はホームページ(http://sumaip.teacup.com/goraiko/)。問い合わせはメール(goraiko@tabiclubong)(小林孝出)

▲ 3 毎日新聞朝刊『年 8 日間だけご来光カフェ』(2012 年 9 月 29 日)

▲2 梅田経済新聞『淀屋橋港桟橋に 8 日間限定「ご来光カフェ」―「ご来光クルーズも」』(2012 年 9 月 27 日

探訪・ノスタルジア:特別編　温故知新・まちあるきサミット（大阪市中央区）

毎日新聞　2012年12月10日　大阪夕刊

◇人と街を育み合わせて活力　横のつながり強化で面白度アップを

今回は「探訪特別編」として、故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知るまちあるきを。関西各地で主催する団体や個人が集まった「まちあるきサミット」の模様を報告する。【松井宏員】

＝船着き場カフェ熱く

大阪の魅力を再発見する活動を続けているＮＰＯ法人「もうひとつの旅クラブ」が、創設１０周年を記念して企画。１１月２４日に大阪市中央区の八軒家浜船着き場のカフェで開かれ、約６０人が参加した。

街の知られざる歴史遺産や今のスポットを歩いて街を知り楽しむまちあるきは、近年人気が高まっている。０６年に長崎市が催した日本初のまちあるき博覧会「長崎きるく博」は、約１０００万人を集めて大成功を収め、これを機にまちおこしの手段としても注目され始めた。

＝工場群の運河に着目

サミットには１０の団体や個人が参加し、まずは活動報告。兵庫県尼崎市の公害訴訟をきっかけにできた地域再生プロジェクト「尼崎南部再生研究室」は、「市に観光課がない中で、なにか面白いものが発掘できないか」と０３年から運河クルーズ（年２回）を開催。工場地帯に張り巡らされた運河を巡り、工場の裏側や日本最大級の閘門（こうもん）などを見る。

＝オトナ女性お越しを

堺市の「そや堺ええ街つくり隊」は、「寄足が進のいている堺東の商店街に来てもらおう」と、今年３月から活動を開始。この冬は「オトナの女性のまちあるき」と銘打ち、お茶専門店に煎茶のおいしいいれ方を教わるなどの達人ツアーや立ち飲みツアーなどを実施した。

＝天守閣だけじゃない

世界遺産の姫路城という絶対的な観光地を抱える兵庫県姫路市では、「姫路円卓会議」が０９年から「姫路城天守閣以外にも、いっぱいええとこあるやろ」とガイドマップを作ったり、城の内堀、中堀、外堀ツアーを実施したりしている。メジャーすぎる姫路城に寄りかからない姿勢が面白い。

＝「人を大事」に活性化

ユースホステルを母体とする「まいまい京都」は、なんと１２５ものコースを持つ。京都ユースホステル協会の佐藤隆芳さんは「大事なのは人」と言い切った。この意味は二つある。ガイドが個性的であり、人の思いに焦点を当てて歩くということ。「大工の棟梁（とうりょう）に、建てた町家を案内してもらうとか、地元の人が街の自慢をする。それが街の活性化につながれば」

▶4 毎日 jp『探訪・ノスタルジア：特別編　温故知新・まちあるきサミット』(2012 年 12 月 10 日)

毎日新聞　2012年12月10日(月)夕刊

探訪 ノスタルジア　特別編　温故知新　まちあるきサミット　大阪市中央区で

人と街を育み合わせて活力

横のつながり強化で面白度アップを

◀5 毎日新聞夕刊『探訪・ノスタルジア：特別編　温故知新・まちあるきサミット』(2012 年 12 月 10 日)

▶6 毎日新聞朝刊『まちあるきサミット：24 日・中央区で　参加者募集　／大阪』（2012 年 11 月 16 日）

まちあるきサミット：２４日・中央区で　参加者募集　／大阪

毎日新聞　2012年11月16日　地方版

大阪の魅力発信に取り組んでいるＮＰＯ法人「もうひとつの旅クラブ」が設立１０周年を記念して、「まちあるきサミット」を２４日午後２時から大阪市中央区で開催、参加者を募っている。

旅クラブは、観光化されていない旅から、大阪の街の魅力を体感してもらおうと、水上バスの淀屋橋港での「ご来光カフェ」や、地元の人に町を案内してもらうまちあるき「ＯＳＡＫＡ旅めがね」などを手掛けている。

まちあるきは近年、まちおこしや魅力発信の手段として、各地で盛んになっている。こうした背景から、各地の主催団体や関心のある人たちがネットワークを広げる場となればと企画した。

尼崎南部再生研究室や姫路円卓会議、まいまい京都などの団体が参加予定。第１部は各団体の活動紹介（参加費１０００円）、第２部は交流会（同２５００円）。参加は先着順で定員６０人。申し込みは２０日までにメール（mail@tabiclub.org）で。会場は京阪・地下鉄天満橋駅すぐの「川の駅はちけんや」内、クロッシングガーデン。

▼7 毎日 jp『まちあるきサミット：24 日・中央区で　参加者募集　／大阪』（2012 年 11 月 16 日）

毎日新聞　大阪　市内　2012年(平成24年)11月16日(金)

まちあるきで「サミット」

24日・中央区 参加者募集

大阪の魅力発信に取り組んでいるNPO法人「もうひとつの旅クラブ」が設立10周年を記念して、「まちあるきサミット」を24日午後2時から大阪市中央区で開催、参加者を募っている。

旅クラブは、観光化されていない旅から、大阪の街の魅力を体感してもらおうと、水上バスの淀屋橋港での「ご来光カフェ」や、地元の人に町を案内してもらうまちあるき「OSAKA旅めがね」などを手掛けている。

まちあるきは近年、まちおこしや魅力発信の手段として、各地で盛んになっている。こうした背景から、各地の主催団体や関心のある人たちがネットワークを広げる場となればと企画した。

尼崎南部再生研究室や姫路円卓会議、まいまい京都などの団体が参加予定。第1部は各団体の活動紹介（参加費1000円）、第2部は交流会（同2500円）。参加は先着順で定員60人。申し込みは20日までにメール（mail@tabiclub.org）で。会場は京阪・地下鉄天満橋駅すぐの「川の駅はちけんや」内、クロッシングガーデン。

<5>[北浜]近代建築　栄華語るアート

ツイートする　おすすめ 162　チェック

「読売新聞 北浜 近代建築 栄華語る」の記事をお探しですか？ 最新関連記事が 104 件 あります。

生駒ビルヂングの前で語る池澤さん。「バブル経済崩壊で建て替えていたら、この街はなかった」（大阪市中央区平野町で）

写真の拡大

7羽のワシが北浜の街を見下ろす。「生駒ビルヂング」（大阪市中央区平野町）2階の七つの飾り窓には、ワシの石像が据え付けられている。

生駒時計店として1930年に建築されたビルは、特製のスクラッチタイルを張った5階建て。階段室の出窓、壁面の彫刻など随所にアール・デコ調の装飾が施され、イタリア産大理石がふんだんに用いられている。北浜の証券会社や銀行など法人を顧客に持つ高級時計店にふさわしい、工芸品のような造りだ。

外壁の最上部には大時計があり、生駒時計店の看板「駒形に生」が張り付けられている。だが今、このビルに時計店はない。1階はイタリアンバル、2～5階は小規模なオフィススペースが30並び、ほぼ満室。時計店は隣のビルの6階を賃借する。

「ビルを生かし、時計店も続けるには、これが最善の方法だった」

ビルオーナーで時計店店主の生駒伸夫さん（55）が、10年前の決断を振り返った。

◇

「このまま時計店がビルを所有するなら金は貸せませんよ。事業や返済の計画を示してもらわないと」

1階エントランスの階段。大理石に赤じゅうたんが敷かれ、建設当時と同じスタンドグラスが来客を待つ

写真の拡大

1990年代末。銀行の担当者からそう言われ、生駒さんは考え込んだ。95年の阪神大震災後、ビルは大幅な耐震補強を迫られていた。97年には国の登録有形文化財に指定され、外観を変更せずに工事をしなければならなかった。試算すると、費用は数千万円に上った。

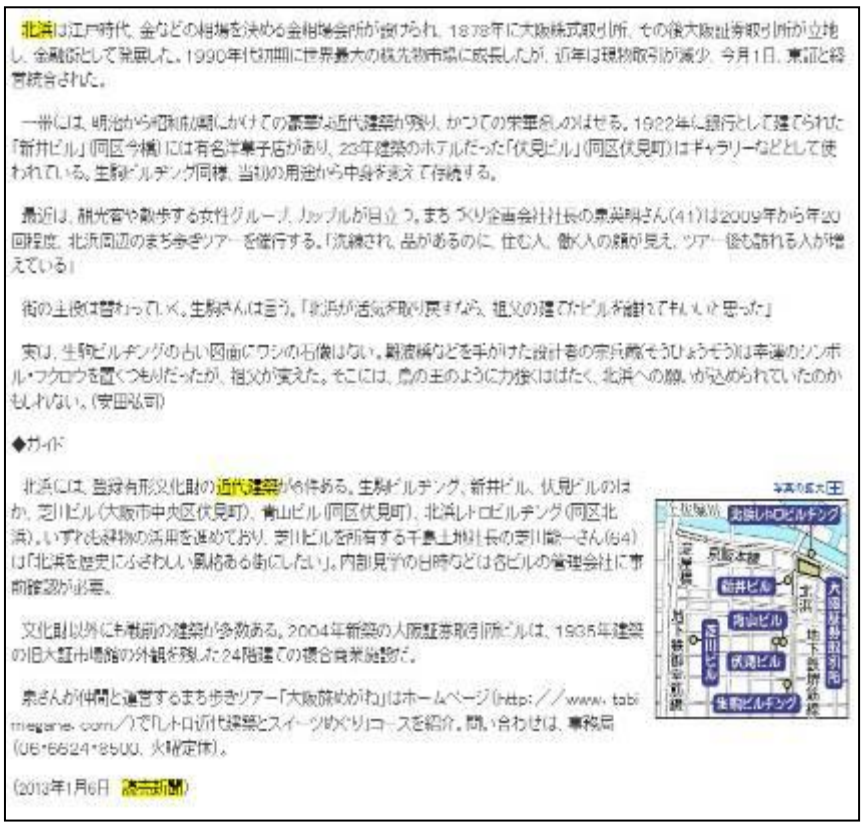
バブル経済崩壊後の不況で、企業から贈答品や記念品の注文が減った。北浜から東京に本社を移した企業もあり、時計店の売り上げ回復は望めなかった。

その頃、知人を通して、不動産コンサルタント業の池澤吉則さん（48）と出会った。「古い建物のままでは採理代も生まれへん」。生駒さんが嘆くと、意外な言葉が返ってきた。「近代建築は最大のアート。遊びや無駄と思っていた空間が価値を持つし、年月を重ねて得られる空気感は何にも代え難い」

池澤さんは「自由な発想で不動産を活用したい」と大手住宅メーカーを退職し、市内で起業したばかりだった。耐震化のほか、最新のネット環境や来客・電話応対のコンシェルジュ機能を備えたレンタルオフィスに改装する計画を提案した。

「マイナスの部分をどうやって取り繕おうかと後ろ向きに考えていたが、建物そのものを評価してもらい、前向きな発想になった」と生駒さん。ビル1階で時計店を続けるつもりだったが、生まれ変わったビルは周辺の賃貸価格より高くなり、貸した方が利益になった。思い切って、歴史あるビルを離れた。

▲▼8 YOMIURIONLINE（読売新聞）『「懐古と再生」:［北浜］
近代建築　栄華を語るアート』（2013 年 1 月 6 日）



北浜は江戸時代、金などの相場を決める金相場会所が置かれ、1878年に大阪株式取引所、その後大阪証券取引所が立地し、金融街として発展した。1990年代初期に世界最大の株先物市場に成長したが、近年は現物取引が減少。今月1日、東証と経営統合された。

一帯には、明治から昭和初期にかけての豪華な近代建築が残り、かつての栄華をしのばせる。1922年に銀行として建てられた「新井ビル」（同区今橋）には有名洋菓子店があり、23年建築のホテルだった「伏見ビル」（同区伏見町）はギャラリーなどとして使われている。生駒ビルヂング（同様、当初の用途から中身を変えて存続する。

最近は、観光客や散歩する女性グループ、カップルが目立つ。まちづくり企画会社社長の東泉明さん（41）は2009年から年20回程度、北浜周辺のまち歩きツアーを催行する。「洗練され、品があるのに、住む人、働く人の顔が見え、ツアー後も訪れる人が増えている」

街の主役は替わっていく。生駒さんは言う。「北浜が活気を取り戻すなら、祖父の建てたビルを維持できればいいと思った」

実は、生駒ビルヂングの古い図面にワシの石像はない。鉄骨構などを手がけた設計者の宗兵蔵（そうひょうぞう）は幸運のシンボル・フクロウを置くつもりだったが、祖父が変えた。そこには、鷹の王のように力強くはばたく、北浜への願いが込められていたのかもしれない。（安田弘司）

◆ガイド

北浜には、登録有形文化財の近代建築が6件ある。生駒ビルヂング、新井ビル、伏見ビルのほか、芝川ビル（大阪市中央区伏見町）、青山ビル（同区伏見町）、北浜レトロビルヂング（同区北浜）。いずれも建物の活用を進めており、芝川ビルを所有する千鳥土地社長の芝川徹一さん（64）は「北浜を歴史にふさわしい風格ある街にしたい」。内部見学の日時などは各ビルの管理会社に事前確認が必要。

文化財以外にも戦前の建築が多数ある。2004年新築の大阪証券取引所ビルは、1935年建築の旧大証市場跡の外観を残した24階建ての複合商業施設だ。

泉さんが仲間と運営するまち歩きツアー「大阪旅めがね」はホームページ（http://www.tabimegane.com/）でレトロ近代建築とスイーツめぐりコースを紹介。問い合わせは、事務局（06・6624・8500、火曜定休）。

（2013年1月6日　読売新聞）

▼ 9 大阪市交通局，「ノッテオリテ」vol.19,2012 年 5 月号，『「食との出会い」でさらに濃密な大阪のぞきを。』（小田切・旅めがね）

▼ 10 大阪市交通局，「ノッテオリテ」vol.19,2012 年 5 月号，『コリアンフードの豊かさにまみれる。』（岩田理事長）

▲11 NHK,「ウイークリーステラ」, 2012 年 3 月 30 日号,『ええとこ!!ぶらり大阪好きやんねん』(岩田理事長、小田切・インプリージョン)

◆講演・発表

①「まち育てにつながるまち遊び・まち歩きのススメ」

・主催：寝屋川市　平成 24 年度のワガヤネヤガワ大学公開講座

・開催：2012 年 9 月 23 日　大阪電気通信大学駅前キャンパス

・担当：泉理事、森事務局長、森・旅めがね

② 2012 年度第 9 回都市環境デザインセミナー

まちづくりの「まち医者」～これからの専門家像を探る

・主　催：都市環境デザイン会議関西ブロック

・開　催：2012 年 11 月 29 日（木）キャンパスポート大阪会議室

・担　当：泉理事

③「もうひとつの旅クラブ」岩田尚樹　公開講義

（大阪商業大学の「都市計画」通年授業の中の 1 講義）

・主　催：大阪商業大学

・開　催：2012 年 12 月 10 日（月）大阪商業大学 4 号館 2 階 426 教室

・　担　当：岩田理事長

◆サイト更新アクセス分析

2008 年 6 月 16 日より Google Analytics を用いてトップページのアクセスデータを取得している。

2012 年 4 月 1 日～2013 年 2 月 5 日の期間の分析を行う。主な内容は以下のとおり。

・ アクセス数は昨年度、一昨年度と同様にご来光カフェ準備期間（宣伝期間）と開催期間中が

最も多い。今年度は 10 月 5 日のアクセス数が最も多く 213 セッションを記録している（昨年度は 9 月 30 日に最高値 156 セッションを記録)。昨年度が梅田経済新聞及び Yahoo！ニュースに 9 月 30 日掲載されたことが影響し、ご来光カフェ準備期間中に最ピーク期が来ていたのに比べ、今年度はご来光カフェ開催期間中に最ピーク期を迎えているところが異なり、例年以上の開催期間中の盛況ぶりが伺える。今年度も梅田経済新聞（9 月 27 日付）の記事の影響（86 セッションを記録）で、注目度が一気に上がりその後のアクセス数増加に結びついていると考えられる。一昨年度はご来光カフェ開催期間中に、昨年度は準備期間中に、今年度は開催期間中に最ピーク期を迎えたという傾向の変化が見られる。

- ご来光カフェに続いてアクセス数が多かったのが、4 月 4 日の 46 セッションと 6 月 12 日の 62 セッションであるが、この理由については不明である。4 月 4 日は大阪からのアクセスが約 41%、渋谷からのアクセス約 15%の順となっており、6 月 12 日は大阪からのアクセスが約 39%、京都からのアクセスが約 18%となっており、ほとんどが日本からのアクセスと見られる。
  - また 5 月 12 日に 43 セッションという比較的高いアクセス数を記録している。これはご来光カフェの舞台、大阪水上バス淀屋橋港桟橋に関する記事を同日にアップしたことに加え、旅クラブメンバーが Facebook, Twitter 等で宣伝を行ったためと考えられる。
- 前年度に比べ、訪問数は約 3%増え、ユーザー数（一定期間内のアクセス数。同じユーザーは一回のみカウント）が約 28%増加、そして新規訪問の割合が約 20%増えている。反対に訪問時の平均滞在時間は約 25%減少している。また大阪からのアクセス数が若干減少している一方、関東、特に渋谷からのアクセス数が増えている
- アクセス国は日本が 99%と断然高く（昨年度は約 97%）、続いて台湾（0.3%）、米国(0.2%)、ドイツ(0.1%)、の順でインドネシア、ブラジル、スペイン、ニュージーランド、中国からもアクセスがあった。
- 参照トラフィック（参照元サイトからのアクセス量）ベスト 10 は①「Facebook」(訪問数 586、昨年比約 15%増)、②「Facebook(携帯)」(158、約 61%増)、③「旅めがね HP」(146、約 59%増）④「Google」（114、約 307％増）、⑤「ご来光カフェブログ」（93、約 19％増）⑥「OSAKA-INFO」(67、約 43%減)、⑦「ハートビートプラン HP」(63、約 58%増)。⑧「Twitter」(53、約 52%減)、⑨「大阪川床北浜テラス HP」(49、約 9%減)、⑩「もうひとつの旅クラブ HP」(43、約 38%増)。
- 検索キーワードベスト 10 は①「ご来光カフェ」(アクセス数 624、前年度比：約 112%増)、②「不明」、③「もうひとつの旅クラブ」(239、64%増)、④「大阪まち遊学」(146、約 22%増)、⑤「もう一つの旅クラブ」(128、約 83%増)、⑥「旅クラブ」（72、約 55%減)、⑦「ご来光カフェ 2012」(66、6500%増)、⑧「ご来光クルーズ」(44、約 175%増)、⑨「もうひとつの旅」(33、約 43%減)、⑩「ご来光カフェ大阪」(32、約 3%減)。

【考察】

- 今年度はご来光カフェ来訪者数最多の兆候が随所に見られる。これまでの継続的なイベントの試みに加えて、新聞・インターネット、テレビ・ラジオ等のメディアによる宣伝効果が相まって、このような結果につながったと考えられる。
- 昨年以上に Facebook の影響が大きくなっている。また今年度は旅めがねとの共同企画であ

ったフレンドショップの影響からか旅めがね HP から旅クラブへのアクセスが急増している

・ Google のキーワード検索からの来訪が増えている傾向が見られる。

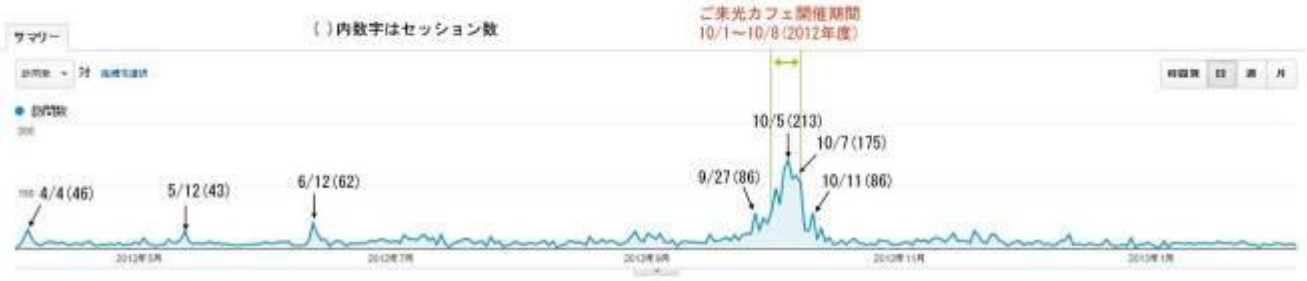


図 Google Analytics 解析画面（2012/4/1～2013/2/5）

※ セッションについて：ユーザーが該当サイトで 30 分以上操作を行なわなかった場合、それ以降の操作は新しいセッションとみなされる。一旦，該当サイトを離れたユーザーが 30 分以内に同じサイトに戻ってきた場合は、最初のセッションの一部としてカウントされる。

２．旅クラブの組織活動（組織活動の充実と強化）と財源確保

（１)組織活動、市民参加による事業推進

①会員の拡大

大阪まち遊学の参加者との交流やご来光カフェの運営ボランティアスタッフの充実などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。今年度は 4 名が退会したが、新たに 3 名が入会し、当 NPO の活動に関心を持っている方は着実に増えている。

◇2012 年度の会員数

・正会員　 26 名（前年度比 1 名減）

・賛助会員　0 名（前年度比増減なし）

②組織活動

前期と同様に運営委員会を月例で開催し、大阪まち遊学、ご来光カフェ、まち歩き CUP などの事業の企画・実施方策等を協議した。企画調査業務など専門性が求められる事業においては、受託先との会議やとりまとめ作業は担当理事を中心に行うものの、多才な会員のスキルをできる限り活かした作業分担を図った。10 周年記念行事である「まちあるきサミット」の事業については、これまで築いてきた各会員の人脈等を積極的に活用し、他の地域や独自の視点で活動する組織等との交流を実現させた。

◇総会（第 10 回）の開催

・開催日時：2011 年 3 月 17 日（土）16 時 00 分～17 時 20 分

・会　場：旬味　節（大阪市中央区島之内）

・出　席：12 名（書面出席 6 名）、欠席 8 名
・議　案：2011 年度事業報告及び決算報告
2012 年度事業計画及び収支予算の審議
役員改選（河野理事、羽田理事新任）
◇理事会の開催
理事会は総会に先立ち 2012 年 2 月 3 日（金）に 7 名参加にて行われた。尚、総会に伴い 3 月 17 日の総会後にも理事長など役員選任の理事会が行われた。
◇運営委員会の開催
以下の通り、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。
・2 月 3 日（金）11 名参加　・ 4 月 8 日（日）14 名参加　・5 月 20 日（日）9 名参加
・6 月 16 日（土）11 名参加　・ 7 月 15 日（金）9 名参加　・8 月 25 日（土）８名参加
・9 月 22 日（土）８名参加　・10 月 19 日（金）9 名参加　・11 月 17 日（土）9 名参加
各運営委員会は当 NPO に興味のある人にオープンで行われ、２月、４月については、オブザーバーの参加を得て行われた。また、10 周年記念シンポジウム直前の 11 月の運営委員会には、シンポジウムの衣装作成にご協力頂いた会員のご家族の参加を得て行われた。

（２）財源確保の充実と課題

2012 年度も収入面では企画調査業務の運営委託費にて運営の基盤となる定常的な経費が賄われている。ご来光カフェや大阪まち遊学、もうひとつの旅談義など定着化した自主プログラムについては、プログラム毎に収支バランスを取る原則で、着実に継続しているが、多様な活動を継続していくためには、外部からの委託業務の受託が今後とも重要である。2013 年度以降は従来の発注者からの企画調査業務委託が見込めない状況から、新たな委託業務の開拓に努めるとともに、管理費を最大限圧縮し、従来以上に自主事業から利益を確保するなど柔軟性のある NPO 運営を図っていく必要がある。